

## 日本小児感染症学会若手会員研修会第1回水戸偕楽園セミナー

## レクチャー7 ワクチンと VPD (vaccine preventable disease) に関する最近の話題

多 屋 馨 子\*

ワクチン後進国といわれる日本の現状を先進国に変えていくには、若い医師が感染症対策に興味をもち、まず VPD の国内発生状況を理解し、予防接種の有効性と安全性を理解したうえで、臨床の場で活用できるようにすることが大切である。

第1回水戸偕楽園セミナーでは、若手医師に知っておいてほしい内容をまとめてお話した。

1. 日本で接種可能なワクチンと、現時点で未承認のワクチンに関して、種類と接種スケジュールの両方について理解する。

2. わが国の VPD 患者発生状況（多くの先進国が予防接種の徹底により患者数を激減させているなか、わが国では定期接種に導入されていないため接種率が低く、いまだに毎年大規模な流行を繰り返している感染症があること）を理解する。

3. 院内感染対策としてのワクチンを理解し、接種に際しての注意事項を理解したうえで、自ら実践する。

4. 成人百日咳の流行とその対策について

5. 新しく国内に導入されたワクチンに関する知識 (HPV ワクチン、乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン、ヒブワクチン)

6. 2012 年麻疹排除に向けた取り組みと現在

の課題

保護者からの質問は予防接種後副反応のみの場合が多いのだが、それだけを伝えるのではなく、発病したときのリスクについても同時に正確に伝えたいものである。定期接種（一類）のワクチンは、受けても受けなくてもよいワクチンではないこと、定期接種に導入されていないワクチンのなかにも子どもたちに大切なワクチンがたくさんあること、決められているから受けるのではなく、感染症予防のために必要という認識をもって受けられる教育環境が大切であること、まずはこれらを若手の小児科医に理解してもらう必要がある。

医療行為としての注射はできても、理解して接種すること、すなわちその感染症に関する病態を把握し、予防接種に際して注意すべき点と、その後得られる効果と起こり得る副反応を正しく理解ができていなければ、予防接種を実施する医師にならないくらいの考えで、若手医師には予防接種に取り組んでほしいと思う。保護者に正しく説明できてこそ、国民の理解につながり、さらにはわが国の感染症対策につながることを期待されるからである。

\* \* \*

\* 国立感染症研究所感染症情報センター